

# 保存活用計画書

景観資産の名称	琴滝～地域を育む京丹波の光の水辺～
申請者	NPO法人丹波みらい研究会 理事長 岩崎栄喜雄

## 代表写真



## 1 位置及び範囲

### 【位置】



船井郡  
京丹波町

### 【登録範囲と範囲設定の考え方】

琴滝や琴滝からの渓流を散策する遊歩道（町道須知琴滝線）及び、琴滝や地域の農業用水の水源となる上流の小滝池並びに大滝池の散策路を視点場とした可視領域であり、一体に景観を形成する周囲の山林を登録範囲に含めるため、視点場を囲む山の稜線の範囲を境界とする。（鳥獣保護区の区域と一致）（約58ha）



## 2 自然、歴史、文化等からみた特性

### □景観資産の魅力

約200mの遊歩道（町道須知琴滝線）を脇に流れる小川のせせらぎを聞きながら上ると琴滝がある。高さ約43mの一枚岩を流れ落ちる美しい滝が十三絃の琴糸のように見え、その音色が琴音に似ていることが名の由来である。

琴滝では、春は桜が、夏は滝特有の涼しさが、秋にはモミジがすばらしい魅力を供しており、周辺の間々と一体となった自然景観を形成している。

また、滝の周辺は、自然の景観を壊すことなくうまく整備され、誰もが容易に訪れることの出来る景勝地となっている。これまでに、数々のドラマや時代劇の撮影場所にも使われ、また、多くの写真愛好家が季節ごとに訪れるような誰もが認める良好な自然景観を形成している。

琴滝の上流に位置する小滝池は、周辺の公園を京丹波町が管理しており、公園の散策路からは、池と人の手が入った里山景観を見ることが出来る。

小滝池のさらに上流に位置する大滝池は、池と自然の間々が調和した景観を形成している。

### □自然的特性

京都府中部の丹波高原に位置し、京丹波町の南端にある。琴滝から流れ出る水は遠く由良川となり日本海に注いでいる。

琴滝や小滝池、大滝池は各々特徴ある植生を示しており、ソヨゴ、ヤブツバキ、カシなどの原生林が多く生育している。

琴滝周辺は、明治期に植樹された杉や桧が20m以上の大木に育って景観に一役買っており、近年は桜やモミジも植樹されて、春の桜、秋の紅葉と云った四季折々の景観も形成しているほか、冬には数年に一度、滝が凍り、巨大な氷柱が出来ることもある。

小滝池周辺は、琴滝への散策路と同じく、人の手が入った里山として利用される森として、杉や桧が植えられている。

大滝池周辺は、二次林である松等の植生が見られるものの、里山とはやや異なった自然が残されている。

### □歴史・文化的特性

古くは、今昔物語第十二巻三十七話「丹波ノ国船井ノ郡棚波ノ瀧ト云フ所二行テ」と記載されたものが琴滝であろうとされている。更に時代は下って戦国時代にかけてこの辺り一帯に居を構えた須知氏により山城須知城が築城された。戦国末期、織田信長全盛のころ惟任日向守（明智氏）の丹波攻めにより落城したが、山城須知城の裏庭にあたる琴滝は、時の権力者にとっても癒しと潤いを与え、往時には玉雲寺とともに一つの風情を与えていたのかも知れない。

小滝池・大滝池は大正時代に起こった大干ばつを機にため池の整備が行われ、小滝池周辺は、平成3年から5年にかけて水環境整備事業により周囲の公園やアプローチ道路等が整備された。

□周辺環境との関係

琴滝及び小滝池並びに大滝池は昭和の町村大合併のおり、旧須知町から須知山林共同経営組合に売却され、現在、同組合所有になっているが、このうち農業用水及び水路については、須知東部水利組合が管理している。

琴滝の水源となる大滝池及び小滝池から流れる水は、現在、農業用水としても利用されており、広く京丹波町丹波地域東部流域各区の水田を潤している。

なお、登録範囲の森林を管理する須知山林共同経営組合及び水利権を有する須知東部水利組合からも、本登録については理解を得ている。

### 3 景観の保存、育成及び創造に関する事項

#### □法律や条例などによる景観上の規制誘導事項

景観形成に関する法律、条例によって特に規制はされていないが、農業用水としての水利権により滝からの放水量を厳しく制限している。

また、登録範囲が森林法の保安林に指定されており、立木の伐採に制限がかけられている。同じく鳥獣保護区にも指定されており、生物の多様性を確保し自然環境の保全を図る区域として位置づけられている。

#### □景観づくりの目標像

四季を通して

「京丹波町を通過するまちから、立ち寄るまちへ、そして多くの人を訪れるまちへ」とすることを大きな目標に、琴滝を地域の魅力溢れる景勝地にするため、景観保全や心やすらぐ景観づくりのための様々な活動を実施している。

#### □景観づくりの取組

[現状]

##### ○景観維持活動の実施（5月・7月・9月）

丹波みらい研究会のメンバーが早朝5時ぐらいから数時間、草刈り、倒木処理やゴミ拾いを行う。

また、メンバーの庭師により、自然環境を生かした剪定を行い、より自然に、しかしながら、よく手入れされた「庭」をイメージして整備を行っている。

##### ○桜の植樹

京丹波町から桜の苗木の支援を受けて丹波みらい研究会が植樹を実施している。

##### ○モミジの植樹

京都府地域力再生プロジェクトの交付金により、公募した地域の人とともに20本のモミジの植樹を実施している。

##### ○ホタルの養育

初夏には、ホタルが群生するように幼虫を放流している。さらに幼虫の餌になるカワニナを捕獲し定期的（年3回ほど）に、滝に放流している。

##### ○冬ほたる

冬期には、琴滝と遊歩道200mの木々に、京都府最大級のLED35万灯によるイルミネーションを行うイベント「冬ほたる」を平成17年度から開催している。地元市森区の住民にも運営に協力していただき、約2万5千人が来場するなど、琴滝の景観資産として



植樹の様子



ホタルの幼虫



「冬ほたる」

の魅力の発信や京丹波町の活性化に向けた取組を続けている。

#### ○災害時の復旧活動（平成16年台風23号による災害の復旧）

平成16年、府北部に大きな災害をもたらした台風23号は、旧丹波町にも傷跡を残し、「琴滝」も壊滅的（人力では復旧不可能なくらい）な被害を受けたため、丹波みらい研究会はメンバーの力「重機（土木関係者）、知恵（植木関係者）、労力」を結集して遊歩道から見える範囲を復旧させた。



災害復旧活動の様子

#### ○公園の維持活動

小滝池周辺の京丹波町が管理している公園について、周辺の清掃や、施設の簡単な補修などの維持活動を丹波みらい研究会が自主的に行っている。

#### ○町道須知琴滝線（琴滝への遊歩道）

町道須知琴滝線は遊歩道として、コンクリート舗装により整備されているが、老朽化が進み、車輛通行に支障のある箇所や美観を損ねている箇所があるため、ボランティアとして取組可能な草刈りや清掃などの美化活動や応急補修などを行っている。

### [課題]

#### ○琴滝周辺部分

滝壺から滝上部への登り道で栈道や階段が一部破損している箇所があるほか、小滝池に設置されている休憩小屋の一部に老朽化している箇所がみられる。

また、周辺の山林では、林業の衰退に伴い、山に人が入らなくなっているため、周辺部では多数の倒木がある。

こうしたハード面の課題への対応については、速やかな解決が困難な課題であるが、倒木処理や施設の維持管理など、琴滝の景観資源を保全するため地域で出来る取組を進めていく必要がある。

### [解決のためのアイデアや方針]

現在は、「自分たちでできることは自分たちです」ことを前提に手を加え維持に努めているが、京丹波町をはじめ行政や関係機関との更なる協働を進め、適切な維持管理の体制づくりを進めていきたい。

そのためには、「冬ほたる」などのイベント開催や景観資産への登録を通じて、琴滝の魅力を発信し、多くの方に琴滝にお越しいただき、その価値を理解していただくことが、琴滝を取り巻く課題の解決に向けた、京丹波町全体での取組に繋がっていくものと考えている。また、こうした取組を進める中で、小滝池大滝池や周囲の山林も含め、琴滝の景観資源をどの水準で維持していくかの基準や合意づくりもあわせて行っていくことが必要と考えている。

## 4 景観を活かしたまちづくりへの展開に関する事項

### □景観を活かしたまちづくり活動

#### [現状]

京都府の地域力再生プロジェクトの交付金を活用し、併せて地域の人や企業から協賛をいただき、それらを資金として、「冬ほたる」を始めとするイベントを実施することで、京都府全域および近畿一円に琴滝を認知して頂くことが出来た。今後は、一年を通じて京丹波琴滝を訪れて頂ける様に、そして地域の方々に誇れるまちのシンボルとして認知して頂けるようにするべく活動している。



#### [課題]

##### ○交通アクセス

通常はマイカーでのアクセスに問題はないが、アクセス道路である町道は道幅が狭く、イベント開催時には渋滞が発生することがあるため、地域の方々の理解と協力を得て、丹波みらい研究会において、既存の農道を活用した交通誘導等を行うなどイベント時の渋滞の解消に向けた工夫を行っている。

##### ○まちづくり活動の広がり

過去4年間に渡って活動した結果、丹波みらい研究会のメンバーに従業員を出向させてもらえる企業や、安定した品質や低価格で「冬ほたる」のLEDを調達して頂ける企業、地域の方々の参画など、趣旨に賛同して協力頂ける方々が増えてきたところである。また、「冬ほたる」の活動に際しては、活動を支援していただけるサポーターの公募や、自主的に活動をサポートしていただいた地元市森区の住民の方々などにより「冬ほたる」を中心にまちづくり活動の広がりを見せ始めているところである。

しかし、目標とする「気軽に多くの住民が参加する」を目指し、地域の自治会と連携を図り取組を進めているが、琴滝での賑わいづくりを京丹波町の魅力づくりや地域経済の活性化にどのように結びつけ、自立・持続可能な地域づくりを進めていくかの道筋をしっかりと描いていくことが必要である。

#### [景観を活かしたまちづくり活動のアイデアや方針]

継続してまちづくり活動の取組を実施し、京丹波と言えば「琴滝」であると、京阪神地域の人に認知して頂くことによって、地域資源・景観資源としての「琴滝の位置」が明確になり、今後の京丹波町のまちづくりの一翼を担うことが出来るものと考えている。

継続して琴滝の景観管理に努めるとともに、今後は小滝池や大滝池など周辺地域の資源も活かした様々なイベントの実施を通して、琴滝をより多くの人に認知して頂き、訪れるまちのシンボルとして町民みんなが誇れる「琴滝」にしていきたい。

## 5 その他必要な事項

### □ 提案団体の概要

#### ■ 組織名称

- ・ 特定非営利活動法人丹波みらい研究会

#### ■ 設立日、主たる事務所の所在地、会員数

- ・ 設立平成16年2月
- ・ 京丹波町蒲生野口45-1 京丹波町商工会内
- ・ 21名（平成20年4月1日現在）

#### ■ 設立目的

#### 京丹波町を通過する町から立ち寄るまちへ、そして多くの人々が集まるまちへ

京丹波町は、国道9号と国道27号が交差し、京都市内と京丹波町を結ぶ京都縦貫道の終点である丹波ICを擁する交通の要衝であるが、現時点ではその利点を活かし切れていない。ガソリンスタンド・ドライブインといった一部の商業施設にとって、その効用は大きいですが、住民や町全体としては、国道を利用されている人の通過ポイントにすぎない状況である。

本会は、京丹波のまちづくりにおいて、人々が立ち寄るまちへとなるよう調査・研究し、琴滝を中心に住民参加型の様々な事業を実施している。こうした活動を通じて、気軽に住民が活動できる環境を整え、事業に加わることでまちに対する誇りが生まれ、てくる事を目指している。

そして、住民のまちに対する誇りが、新しいまちづくりの力となり、さらなる活動のスパイラル効果が生まれ、多くの人々が集まるまちづくりにつながっていくことを期待し、本会を設立したところである。

#### ■ 主な実施事業

- ・ 「冬ほたる」「琴滝清掃活動」「ほたる放流育成事業」

#### ■ 景観資産の登録範囲における団体の活動対象範囲

- ・ 景観に関わる自然環境の維持整備

#### ■ 景観資産の登録範囲における団体の活動内容

- ・ 継続的なイベントの実施
- ・ 自然環境の保全・美化活動